

第21回北海道こども木工作品コンクールを終えて

企業支援部 技術支援グループ 高山光子

今年も林産試験場では、(一社)北海道林産技術普及協会と北海道木材青壮年団体連合会との共催で、「北海道こども木工作品コンクール」を開催しました。

このコンクールは、日常あまり手にすることのない木工道具を使用し、想像力を生かして一つの作品に仕上げるという体験を通して、子供たちの木材や樹木への興味を育み、木工技術の向上を図ることを目的としています。毎年、教育委員会をとおして北海道内全ての小中学校に応募を呼びかけ、木工工作個人の部(造形的作品部門)、同(実用的作品部門)、団体の部、レリーフ作品の部の4部門について作品を募集しています。

応募作品については、美術館や学校教育関係者などによる審査委員会で、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、特別賞を選考し、最優秀賞には知事賞を授与しています。

今年は全道の小中学校19校から、299点の作品の応募があり、9月11日の審査委員会で、受賞作品が選ばれましたので、これらの受賞作品を中心に、今年のコンクールについてご紹介します。

■木工工作個人の部(造形的作品部門)

木工工作個人の部(造形的作品部門)には小学校9校から76作品が寄せられました。木や松ぼっくり、ドングリなど使い、素材の形や持ち味を生かして表現した創意あふれる作品が集まりました。

最優秀賞には、旭川市立神楽小学校3年 三浦葉音さんの「歩いている鳥」が選ばれました。木の形を鳥の頭や体に見立て、歩いている鳥の様子をユーモラスに表現した作品で、「尾の長いクジャクがこのように見える」、「素材の見立て、使い方がおもしろい」、「表情がある」など、審査委員全員から高く評価されました。

優秀賞には、たくさんの細かい木の枝を使って独創的な飛行機を制作した「空を飛ぶ飛行機」(旭川市立神居東小学校4年 多田皓雅さん)と、家の前の海岸で流木を拾い集め、遊具や地面の土、草まで全て流木で作成した「流木公園」(羅臼町立春松小学校5年 前田壮吾さん)が選ばれました。審査委員か

らはそれぞれ「普通にはあまりない、おもしろい作品。構造的なおもしろさがある」、「素材の違いをうまく使っている」などの評価がありました。



「歩いている鳥」

旭川市立神楽小学校 3年 三浦 葉音



「空をとぶ飛行機」

旭川市立神居東小学校 4年 多田 皓雅



「流木公園」

羅臼町立春松小学校 5年 前田 壮吾

特別賞にはフクロウや虫に見立てた松ぼっくりやドングリをたくさんはり付けた「しゃしんたて」(中標津町立中標津小学校1年 平澤瑞基さん)、歯に松ぼっくりの1片1片を使うなど材料にも工夫をした「口をひらいているワニ」(旭川市立神楽小学校3年 篠原陸さん)、松ぼっくりやドングリ、ナナカマドの実などを使い、にぎやかで楽しそうな作品に仕上げた「森の結婚式」(旭川市立朝日小学校4年 河端心美さん)の3点が選ばれました。



「しゃしんたて」
中標津町立中標津小学校
1年 平澤 瑞基



「口をひらいているワニ」
旭川市立神楽小学校
3年 篠原 陸



「森の結婚式」
旭川市立朝日小学校
4年 河端 心美

■木工工作個人の部 (実用的作品部門)

今年は小学校6校、中学校1校から合計23作品の応募がありました。

最優秀賞には旭川市立神居東小学校3年 菅谷涼太さんの「ゆうびんばこのちょきんばこ」が選ばれました。細い木を丁寧に並べ合わせて作った作品で、審査委員からは「器用に丁寧に作っている」、「色合いがおもしろい」などの評価を受けました。

優秀賞には小さいながらもしっかりした作りの「まるいテーブル」(根室市立花咲小学校1年 新酒萌々子さん)と天板の真ん中が透明なふたの小物入れになっている「小物入れ付テーブル」(札幌市立あいの里東中学校3年 高橋尚哉さん)選ばれました。審査委員からはそれぞれ「素朴な木組みがよい」、「素朴でかわいらしい」、「釘打ちもきれいにできている」(まるいテーブル)、「デザインが美しい」

、「バランスがよい」、「実際に使えそうなきれいな仕上げになっている」(小物入れ付テーブル)との評価を受けました。

特別賞には、月や日付を書いた木片を入れ替えて使う「万年カレンダー」(中標津町立中標津小学校3年 山口渉慎さん)と「いい味わいがある」との評価を受けた「木のとりごや」(登別市立青葉小学校1年 加藤諒大さん)の2点が選ばれました。



「ゆうびんばこのちょきんばこ」
旭川市立神居東小学校 3年 菅谷 凌汰



「まるいテーブル」
根室市立花咲小学校 1年 新酒 萌々子



「小物入れ付テーブル」
札幌市立あいの里東中学校 3年 高崎 尚哉



「万年カレンダー」
中標津町立中標津小学校
3年 山口 渉慎



「木のとりごや」
登別市立青葉小学校
1年 加藤 諒大

■木工工作団体の部

団体の部は何人かで協力して作り上げた見応えのある大型の作品がよせられる毎年楽しみな部門です。今年は昨年同様、小学校1校、中学校1校からそれぞれ1作品、計2作品の応募がありました。

2作品ともすばらしい作品でしたが、最優秀賞には当麻町立当麻中学校1～3年による「集うV～溪流の魚たち～」が選ばれました。生徒一人一人が制作したそれぞれ少しずつ異なる魚たちが台に針金で固定されており、揺れるとまるで魚の群れが泳いでいるようにゆらゆらと動きます。審査委員からは、「一つ一つ丁寧に作っている」、「ゆらゆらして魚の泳いでいる感じが出ている」、「目の部分の金属のパイプや魚の下の針金が、逆に木のぬくもりを感じさせる。生きている感じがする。」、「他ではあまり見ない作品」など高い評価を受けました。



「集うV～溪流の魚たち～」

当麻町立当麻中学校 1・2・3年

横野 史帆, 柏倉 礼奈, 加納 うとわ, 寺嶋智花子,
中島 乃亜, 山下 風香, 浅見 北斗, 西畑 佳織,
尾田 羅奈, 青柳 伶奈, 一条 真衣, 角井 瑠那,
日下 和音, 工藤 優菜, 小松 唯, 鷺見 友愛,
内藤 里那, 菅野 里歩

優秀賞は滝上町立濁川小学校1・2・4・5年による「わくわく楽しい動物園」です。ドングリや松ぼっくり、木の枝など様々な素材を使って動物園に暮らすいろいろな動物たちの姿を立体的に表現した作品で、中央の木には猿たちがぶら下がって遊んでいるとても楽しい作品です。審査委員からは「わいわいがやがやと楽しそうに作った様子が伝わってくる作品」、「いろいろな材料の使い方がよい」などの評価を受けました。



「わくわく楽しい動物園」

滝上町立濁川小学校 1・2・4・5年
山下 紗希, 保科 龍汰, 山本 羽珠
奥田 達優, 中村 雪乃, 平本 未緒

■レリーフ作品の部

この部門は林産試験場で開発した「アート彫刻板」を使って作品を制作してもらいます。この彫刻板は、赤色の顔料を加えた接着剤で数枚の単板を貼り合わせた合板で、彫り方によって赤い接着層が様々な模様となって現れます。今年は中学校5校から198作品の応募がありました。

最優秀賞には札幌市立簾舞中学校2年 横山耕太さんの「聞か猿」が選ばれました。彫られた猿の顔のおもしろさや全体の構図、創造性などが評価されました。

優秀賞には、豪快に彫り込んでいる点が評価された「真夏の向日葵」(札幌市立厚別南中学校1年 磯上夏葵さん)と、細かい技巧で彫られている点が評価された「不思議」(稚内市立潮見が丘中学校2年 東海林睦美さん)のタイプの違う2作品が選ばれました。



「聞か猿」
札幌市立簾舞中学校 2年 横山 耕太

ラの迫力と彫り方の工夫が評価された「トラ」(札幌市立簾舞中学校2年 酒井桃果さん)、「クラゲがぐちゃぐちゃになって泳いでいる様子が良く出ている」と評された「クラゲ」(当麻町立当麻中学校3年 菅野里歩さん)、「時間をかけて最後まで丁寧に丁寧にがんばって彫った作品」と評価された「ザリガニ」(当麻町立当麻中学校3年 鷺見友愛さん)の5点選ばれました。



「owl's night
~ふくろうの夜」
札幌市立厚別南中学校
2年 堀内 風汰



「真夏の向日葵」
札幌市立厚別南中学校 1年 磯上 夏葵



「さくら」
上ノ国町立上ノ国中学校
2年 佐藤 美南



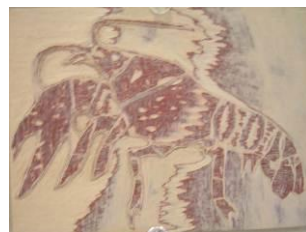
「トラ」
札幌市立簾舞中学校
2年 酒井 桃果



「不思議」
稚内市立潮見が丘中学校 2年 東海林 睦美



「クラゲ」
当麻町立当麻中学校
3年 菅野 里歩



「ザリガニ」
当麻町立当麻中学校
3年 鷺見 友愛

特別賞はふくろうの模様が浮き出て見えるところなどが評価された「owl's night~ふくろうの夜」(札幌市立厚別南中学校2年 堀内風汰さん)、広がりのある感じや絵の雰囲気人评价された「さくら」(上ノ国町立上ノ国中学校2年 佐藤美南さん)、ト

■コンクールを終えて

今年も旭川近郊をはじめ宗谷や根室、檜山など全道から多くの作品を応募いただきました。

木工工作個人の部の実用的作品部門では、テーブルや棚の他、貯金箱やカレンダーなど、日常生活の様々な場面で使えそうな幅広い作品が集まりました。また、実用性を考えてしっかり作られた作品が増えたように思われます。審査委員からは指をかけるくぼみがほしいなど実用品としての改善点の指摘もあり、来年はより実用的な作品が応募されることが期待されます。また造形的作品部門においても昨年同様、素材の持ち味を生かした創造的な作品が数多く集まり見応えがありました。

一方、団体の部の作品は2作品のみで、審査委員からも団体作品の応募の増加が課題としてあげられました。審査委員から募集の仕方についてのアドバイスもいただきましたので、これらをふまえ、今後もより多くの学校に参加してもらえるよう工夫しながら内容豊かなコンクールにしていきたいと考えています。

なお、今年も9月14日～10月6日まで、当場の「木と暮らしの情報館」において、コンクールの全応募作品を紹介する「第21回北海道こども木工作品コンクール展」を開催し多くの方に作品をご覧いただきました。



【第21回北海道こども木工作品コンクール展の様子】